

平成27年3月13日

## 検査データ見落としが原因と考えられる緊急入院について

本院で、検査データの見落としにより、本院外来治療中の患者さんに薬剤が過剰投与され、一時重篤な状態となられた事態が発生いたしましたので、事故の概要と経緯につきましてご報告いたします。

患者さんご本人、及びご家族には大変な苦痛やご心配、ご不安を与えましたことを、あらためて深くお詫び申し上げます。

### 【概要と経緯】

患者さんは、本院での入院治療後、外来通院にて免疫抑制剤治療を継続されておりましたが、これまでの注射薬による免疫抑制剤治療を終了し、新たに内服薬による免疫抑制剤投与を開始しました。

4週間後の外来診察では、「右顎下のリンパ節が腫れているような気がする」という訴えはありましたが、身体の状態について特別変わったところは見受けられませんでした。また、患者さんに当日の血液検査を紙面上で示しながら、以前の検査で異常値を示した肝機能、腎機能の障害はなく、炎症反応は増強していないこと等を説明し、担当医は免疫抑制剤のさらなる効果を期待して、1.5倍量に増量して処方いたしました。

しかし、この日の検査データでは、白血球数、赤血球数、ヘモグロビン、血小板数のいずれの項目も数値が前回と比べ減少しており、中でも白血球数が著しく減少しているのを見落としとしておりました。

患者さんは、白血球減少状態での免疫抑制剤の増量投与が原因と考えられる全身倦怠感と下肢脱力の症状により、近医へ救急搬送されたのち、同日、本院に転院されましたが、検査の結果、免疫抑制剤投与による副作用としての骨髄抑制が生じたと判断し、直ちに血球数の増加を図る治療を開始しました。

現在、患者さんは治療を継続中であり、病院として経過を慎重に見ているところです。

### 【原因について】

1. 以前の検査で異常値を示した肝機能、腎機能の検査データの確認に注意が向き、血球数などの検査結果データについて見落とししていました。
2. 新たに治療内服薬を開始する際に、担当医師は患者さんにこれまでに行っていた点滴療法に替わる免疫抑制剤であることは伝えましたが、点滴療法の

際に行ったような副作用や合併症について、説明同意書を用いての詳細な説明を行っていませんでした。

#### 【再発防止策】

1. 検査データに異常値があった場合は、電子カルテ上に異常数値が警告表示される機能の改善を行っていきます。
2. 処方箋に検査データを添付し、薬剤師のチェックを受けるシステムの改善に取り組んでまいります。
3. 免疫抑制剤などの重要な副作用のある薬剤では、服用前に説明・同意書に基づいた説明（特に副作用について）を行います。

今後は、このような事故を起こさぬよう病院として再発防止策の徹底を図り、医療事故防止に取り組んでまいります。

#### 【お願い】

患者さんに関しましては、個人情報保護法を遵守し、プライバシー保護に万全を期することを条件に公表についてお願いしましたところ、同意をいただくことができました。

公表内容については、患者さんにご了承をいただいた範囲内で作成しておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

宮崎大学医学部附属病院長

吉原博幸

本件に関する照会先：

医学部事務部総務課 大西 (0985-85-1874)